

月刊 エルダリープレス

～シニアの快適生活を応援する～ シニアライフ版

2016年(平成28年) 10月号 第26号

(株)高齢者住宅新聞社 〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15
TEL.03-3543-6852(編集部) 発行人 網谷敏数
http://www.koureisha-jutaku.com

— Elderly Press Newspaper —

第21回 介護旅行にペットも同行

「施設にいる要介護4の母と一緒に家族旅行をしたい」という相談メールがありました。

「部屋は温泉付きが希望です。母には物忘れがありますが、認知症ではありません。食事も普通食で結構です。1泊2日で85歳の父母と娘の私、それに長男4人が一緒です」

「家族の思い出づくり」実現

それは、「無理だとは思いますが、トイレのしつけができて超小型犬と私の夫も参加できた夢のようなのですが…」と結ばれていました。

この家族が本当にしたいことは、要介護の母と愛犬も一緒に家族旅行でした。この方に限らず愛猫や、中には「どうしてもオウムを連れていきたい」という相談もありました。今飼われている犬猫は全国で2000万頭を越え、ペットはすっかり家族の一員です。

介護とペット、この条件を受け入れる宿は少ないのですが、



▲新神戸港のルミナスクルーズ。バリアフリーの船内へ着くまでは、少し緊張しました

安全! 快適! **介護旅行**
SPIあ・える倶楽部社長 篠塚 恭一



1961年千葉市生まれ。大手旅行会社の添乗員を経て91年(株)SPI設立。ホスピタリティ人材の育成派遣に携わる。95年よりトラベルヘルパーの育成をはじめ、旅のユニバーサルデザイン、介護旅行「あ・える倶楽部」の普及に取り組む。06年NPO法人日本トラベルヘルパー(外出支援専門員)協会設立。著書「介護旅行に出かけませんか」(講談社)他。(株)SPI あ・える倶楽部代表取締役社長。NPO日本トラベルヘルパー(外出支援専門員)協会理事長

それだけに実現できた時の喜びは比べようがないといいます。

この方も愛犬連れが無理ならば留守番となって、家族全員の出づくりは実現しませんでした。ですから自然に宿との交渉にも熱が入ります。

一方の移動は、いつでも休憩がとれる福祉車両を使います。改正された介護保険制度では、来春から「新しい総合事業」を完全実施させることになり、「要支援」の方の移動支援は、これにより市町村から提供されます。厚労省の定めたガイドラインでは、「要支援者」に対する移動支援は、身辺援助の提供が中心なので、その運送に対する対価を求めない場合は、「有償の運送」とはされず、道路運送法に基づく登録・許可などは要しないと説明されます。

介護旅行ではトラベルヘルパーも同様の立場なのですが、これを認められないのは口惜しいことで、本来であればもっと多様でリーズナブルな商品を提供できる保険外サービスの実現を望んでいます。